

27 図書館TA(Cuter)による学習支援

九州大学附属図書館

九州大学附属図書館では図書館職員と大学院生である図書館TA(Cuter)が協働して学習支援活動を実施しています。図書館TA(Cuter)は幅広く様々な学府から図書館に集まったティーチング・アシスタントです。図書館TA(Cuter)が教材作成から講師まで務めるレポート書き方講座、各々の知識や経験を詰め込んだWeb上の学習ガイドCute.Guides、学際交流イベントQuriconなど、図書館といっしょに九大らしい自ら学び続ける人をつくるため、様々な活動を展開しています。

28 長崎国際大学におけるピアサポート体制について

長崎国際大学キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター

ピア・サポートとは、仲間(peer)による支援(support)のことを指し、大学においてもピア・サポートを導入することで、サポートを利用する学生のみならず、サポーター学生の成長や、大学全体の「思いやりある」風土づくりなど多様な意義や効果が示されている。本学においては、各学部学科で実質的に行われてきたピア・サポート活動をベースとして、2017年度に、キャンパスライフ・ヘルスサポートセンターと教育基盤センター内に、それぞれ学生同士が支援し合う全学的な組織が体系化された。本ポスターセッションでは、現在本学で行っている全学的組織・各学部学科でのピア・サポートの取組を整理し、本学におけるピア・サポート活動の現状と課題を示す。

29 長崎国際大学薬学部における学習支援制度
ラーニングアシスタント制度について

長崎国際大学薬学部

長崎国際大学薬学部では、平成25年度より学習支援制度としてラーニングアシスタント(LA:Learning Assistant)制度を導入している。LA制度は、成績優秀な上位年次の学生が下位年次または同年次の学生に対して行う学修支援で、1～3年次の基礎科目が主な対象科目となっており、その最終目標は、学修支援の輪を全学年に拡大・浸透し、相互学修が常態化することである。LA制度の実態を把握するために、各年度の前期・後期の講義終了時にアンケートをLA登録学生と被支援学生を対象にそれぞれ実施しており、その調査結果等をもとにLA制度の現状、支援の学習効果、及び今後改善すべき問題点について発表する。

30 長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科学生相互の
学習支援(SA)活動の取り組み

長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科

近年本学科においては、日本語を十分に理解できない留学生や、学修に何らかの困難を抱えていると思われる学生が増えつつあり、その他にも学業不振の学生の増加が顕著になってきている。そのような状況を踏まえ、本学科では、上級生が下級生に学修指導を行う「SA(Student Assistant)制度」を2014年度より導入している。上級生が下級生に教えることにより、知識の習得や日常の学修方法を学ぶことができ、上級生自身にとっても既習の学修内容の定着が期待できるとい、学生が相互に学び合う仕組みとなっており、離学防止・科目内容の定着に一定の成果が期待できる。本ポスターでは、このようなSA制度の具体的な実施内容や方法、実践上の課題について報告を行う。

31 学費を通じて大学や社会の状況を知る。
～戦略としての奨学金事業～そのひとつのあり方～

早稲田大学

昨年のポスターセッションでは、2017年度から新設した児童養護施設出身者向けのフルスベック奨学金「紺碧の空奨学金」をご紹介しました。今回は先ず、その後の経緯と現状をご報告したいと思います。また、本学の奨学金事業の新たな方向性をご紹介するとともに、「戦略」としての奨学金事業のあり方について参加大学の取組を伺い、皆さまと忌憚のない意見交換を深めたいと思います。

32 学費を通じて大学や社会の状況を知る
～Waseda Vision 150の取組紹介～

早稲田大学

本学は、2012年度より「学費を通じて大学や社会の状況を知る」というテーマで、学費を切り口に、大学と社会の関係のありかたや教員と職員の協力体制について意見交換を重ねてきました。今回は、Waseda Vision 150の取り組みの1つである、教員の役割についての本学での検討状況の紹介と、情報交換をさせていただきたいと考えています。毎年楽しみに参加させていただいております。今年も活発な意見交換をよろしくお願いいたします。

33 学生による学修支援活動の展開(九州工業大学ALSA2017)

九州工業大学学習教育センター

このポスター発表では、2016年の発表に引き続き、九州工業大学におけるアクティブラーニング推進支援、とりわけピアサポーターとして位置付けられた学生スタッフ：九州工業大学ALSA(Active Learning Student Assistant)の活動について、2017年の取組状況について発表する。運用知見や課題、今後の展望とあわせて、学生スタッフ自身の声を当日はお届けしたい。

34 学内で留学気分!?「語学カフェ」「ぐるーぱる広場」における学生の取組

中村学園大学・中村学園大学短期大学部

本学は、「語学カフェ」「ぐるーぱる広場」という学内で国際交流ができる機会を学生に提供している。「語学カフェ」は、昼休みの時間に(12時～13時の1時間開催)、ランチを持って気軽に他言語・異文化に触れる機会である。一方で、「ぐるーぱる広場」は、授業の空き時間を使って(大体2～3時間開催)、じっくりと他言語・異文化に触れる機会である。現在は、英語・中国語・韓国語の3ヶ国語を開催しており、学生と同世代の留学生に運営リーダーとして勤務してもらい、その運営を学生が行っている。なお、いずれも、予約不要、参加費無料、出入り自由、飲食自由としている。

35 中村学園女子高校SGH～SGコースの取り組み

中村学園女子高等学校

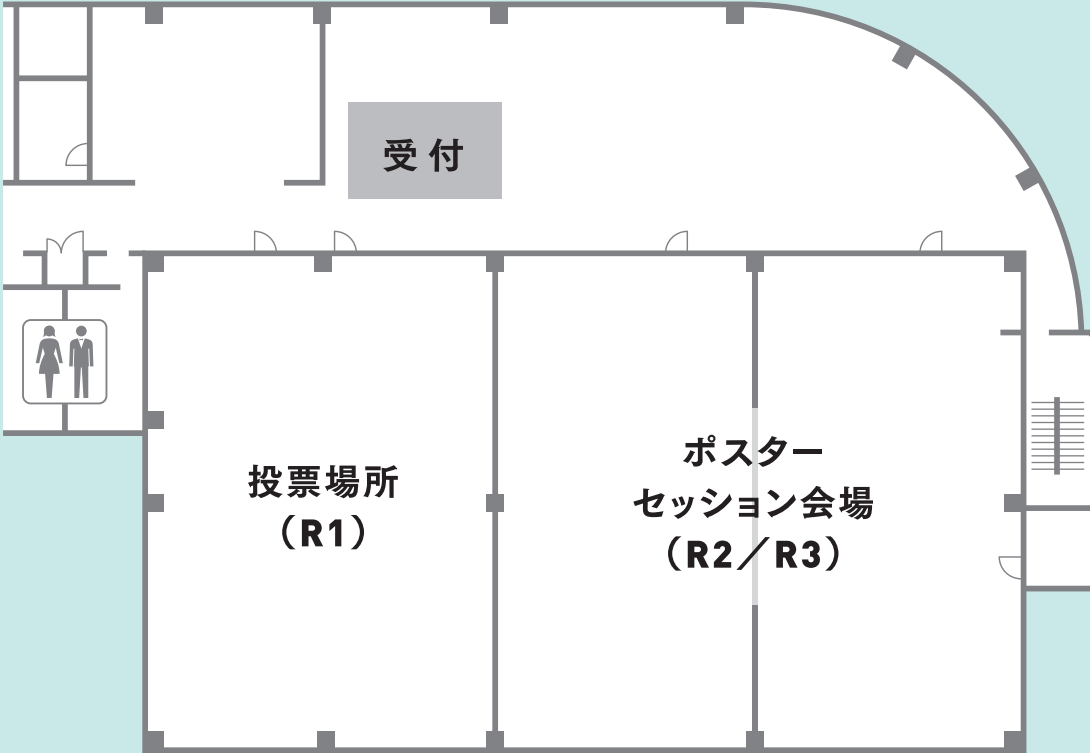
本校SGコースでは、探究科という授業を設定し学習活動を行っている。学習テーマとして「食」を中心に据え、そこから派生していく様々な諸問題に対し、探究アプローチを行っている。授業はターム毎に「食と社会文化」「食と環境」「食と栄養」と学習を進めていっている。授業のスタイルは各自がまず興味関心を持っている内容について発表し、その発表に対し、議論をし、生徒一人一人あるいはグループで探究テーマを模索するという方法をとっている。今回はその中で生徒が探究したテーマのいくつかを端的にまとめ、それぞれについて発表を行いたいと考えている。

POSTER SESSION TIME SCHEDULE ポスターセッションタイムスケジュール

13:00～	ポスターセッション開始
14:30～	シエスタ
15:00	優秀ポスター投票しめきり
15:30～	優秀ポスター表彰

BEST POSTER AWARD 優秀ポスター表彰

【投票】	受付でお配りした資料の中に「投票シート」が入っています。本日のポスター発表の中で、もっとも良かったと思う取組を1つ選んでいただき、投票してください。
【投票場所】	ポスターセッション会場の隣のR1教室に投票箱を準備しています。
【コメント】	投票シートには、「もっとも良かった」という理由について、コメントを記入してください。良かった点、励まし、取組の改善へのヒント、なんでも構いません。それらの寄せられたコメントについては、発表者の皆さまに後日お渡し致します。
【表彰】	投票数の多いポスターを、1位から3位まで表彰(副賞あり)致します。



POSTER SESSION GUIDE
ポスターセッションガイド

-conference 2017
12/16(土)

出入口	Cul Site R2	Cul Site R3	出入口
01	06	20	28
02	07	21	29
03	08	22	30
04	09	23	31
05	10	24	32
	11	25	
	12	26	
	13	27	
	14	28	
	15	29	
	16	30	
	17	31	
	18	32	
	19	33	
	34	35	

01	教職の力量に関する認識と課題探求プロジェクト
中村学園大学教育学部	
教職課程の卒業年次に開講される教職実践演習では、教員としての最低限の資質や能力を備えているか否の確認が求められるが、本学教育学部では学び続ける実践家としてのスタートアップと位置づけている。具体的には、通常の演習授業に加えて、自らの教職者としての強みと弱みを考察した上で、教職者としての力量を上げるためのプロジェクト的学習課題の遂行と近隣の小学校での授業を参観あるいは参与に基づいたフィールドレポート課題を課している。そこで、本学教育学部の4年次の学生の取り組みと自己認識について教職課程の改善の観点から報告する。	

02	インゼミへの取り組みについて
中村学園大学流通科学部	
中村学園大学流通科学部水島ゼミでは、原価計算から管理会計の学習と研究を行っています。そしてそれらを基礎に1グループ6名の2グループに分かれて実際の企業を対象に管理会計の視点から研究を行い、それを他大学と研究発表を行っています(インターゼミナール、以下インゼミ)。本年度は中村学園大学とモロゾフをテーマにしています。研究方法として、第1にテキストやインターネットを中心にそれぞれのテーマについて整理を行っていきます。第2に、問題点を企業調査が実施できる時は、インタビューを行います。そして最終的には論文あるいはパワーポイントの資料をまとめ、2回のインゼミで研究発表をしています。本日は、その活動についてのポスターになります。	

03	流通科学部学生による学内情報システムの開発
中村学園大学流通科学部およびラーニングサポートセンター	
流通科学部の学生を対象として、学内情報システムの開発を行なった。本学では、教育改革支援制度が整備されており、この研究と活動は平成28年度に採択された研究内容が土台となっている。流通科学部は経営学部や商学部などに近いビジネス系の学部であり、そこで学ぶ学生は、ビジネスに関する情報システムについて学ぶ機会がある。このような分野に関心のある学生を集め、ラーニングサポートセンターの予約システムを設計・構築させた。このシステムは現在学内インフラの一つとして正常稼働している。この活動について、本学の現状を踏まえて、サポート体制や、文系学生によるシステム開発の可能性及び成果を報告する。	

04	office365education 導入5年目の成果と課題
崇城大学総合情報センター	
2012年6月からサービス提供が始まったMS社のOffice365educationを本学では2013年度から入学年次のみ採用するという形で順次導入してきました(在学生は従来からのプレミス型のメールシステムを利用)。2016年度で1年から4年生までの全員が利用する形となり現在では学内での利用が定着しメール以外の各種機能についても利用が進んできていると言える状況です。導入及び管理についてはベンダーは関与せず担当が手作業で全て行う形で運用しています。当初期待していた効果は得られたのか?現状での課題は何か?導入5年を振り返って成果と課題をまとめてみました。	

05	電子教材開発に係る最新の取り組み～映像教材とICT活用教材の制作～
九州大学附属図書館付設教材開発センター	
平成23年4月に設置された教材開発センターの最近の活動内容と成果についてご報告いたします。①【MOOCコンテンツと代表的研究者紹介ビデオの制作について】2年前に開講したMOOC(大規模オープンオンラインコース)「個人と組織のための最先端サイバーセキュリティ入門」を2018年1月から再開講いたします。その見どころについてお話しいたします。また、今年から本学の代表的な研究者による研究紹介ビデオの公開を専用ホームページ「先生の森・動画版」にて実施しております。この取り組みについてもご説明いたします。②【ICT活用教材の制作について】学習意欲を向上させるゲームフィクションを活用した電子教材や対話型ウェブ教材、AR(拡張現実)教材の開発事例についてご紹介いたします。	

06	大人数講義における双方向授業による効果と課題
福岡工業大学社会環境学部	
社会科学系学部の科目の中には、体系的知識の習得と授業の効率性の観点から、大人数講義(100人以上)の講義が多く、今後も不可欠である。しかしながら、学生の主体的な学びを重視する観点からは、従来から次の課題や制約がつきまと。・学生一人ひとりのコミュニケーションに限界。・学生の暫時的な理解度・習熟度の把握が困難。・学生の授業参加へのモチベーション管理が困難。・学生の授業態度・姿勢の管理に限界(スマホや私語)。・授業に対する学生のリアルタイムな反応の把握が困難。以上の課題への取組として、スマートフォンアプリのClicaとPingpongを授業ツールとして活用したリアルタイムでの双方向型授業の取組事例を踏まえ、その効果(学生の参加意欲や理解度・習熟度)と運用上の課題について紹介したい。	

07	研究大学における早期の研究体験
九州大学基幹教育院	
本発表では研究大学における早期の研究体験の方法や成果・意義について考察したい。対象となる九州大学21世紀プログラムの学生は、最終年度に自らが設定したテーマに関して卒業研究を行うが、これに向けて2年次後期に課題研究科目を履修し、模範的な研究体験をする。学生は自分の研究計画に沿った研究テーマを掲げ、研究レポートを作成し、研究成果の発表を行う。この体験を通して、学生が自身の卒業研究を推進させるために必要な行動指針等について語れるようになることを目標としている。本発表では、課題研究受講による学生の姿容を、事前・事後アンケートに基づき検討する。	

08	創造性豊かな科学技術人材を育成する学術支援活動～福岡工業大学情報工学部FIT Pocket LAB.～
福岡工業大学情報工学部	
大学入学時に持っていた希望や向学心を維持するために、低学年時からユニークな学術活動に専念できる「FIT Pocket LAB.」の活動を平成25年度より行っています。文部科学省主催の「サイエンス・インカレ」のファイナリストに選出されることを目標として学生が主体的に活動する本取組みは、自主研究の発表の場を提供することで、学生の研究意欲を高めるとともに、課題設定・探究能力、独創性、プレゼンテーション能力などを備えた創造性豊かな科学技術人材を育成することを目的としています。平成28年度には学科横断的な取組みとなり、広がりを見せています。これまでの活動成果をはじめ、学修環境、活動の様子および教育効果などについて報告します。	

09	学生から生徒へ技術継承と未来創造の取り組み～i-STEM教育プログラムの実践～
福岡工業大学工学部情報工学部	
全国(ないし世界)的に高大連携やSTEM教育(Science, Technology, Engineering,., Mathematics)に重点を置いた教育)によるグローバル人材の育成が求められています。STEM教育とは、子ども達の科学技術の理解促進をスタートとして、科学技術リテラシーの普及、向上を図ることで、長期的にグローバルな舞台でイノベーションを起こることができる人材を増やすことを目的とした教育です。これに対し、本学の特色であるInformationを加えた独自の造語として「i-STEM教育」を平成28年度から行っています。i-STEM教育で重要となるのが「技術継承」と「未来創造」であり、これを達成するための環境や体制、主役である大学生や高校生をはじめとした子供達の様子や教育効果について報告します。	

10	学びのユニバーサルデザイン(UDL)に基づいた種々の授業実践～授業への取り組みに関する選択肢の提供～
福岡工業大学短期大学部	
ユニバーサル・アクセス段階にある高等教育において、多様な学修者の学びを推進するための学修環境デザインの検討が進められている。発表者らはCAST(2011)による学びのユニバーサルデザイン(UDL)の理論に基づいて、習熟度別クラスと授業内外における学修方法のそれぞれに選択肢を設け、学生の自己選択の機会を提供するデザインを構築した。これらの取り組みの結果に共通して、学生個々の学修スタイルや状況に応じた学びを展開することが可能になることが確認されたものの、それでもなお学修目標の到達に結びつかない学生も散見された。これらの結果から、更なる授業改善に向けた課題が見出された。	

11	課題解決型インターンシップの取組
福岡工業大学	
福岡工業大学では、授業で学んだ知識を実際の仕事の中で活かす力を育成する取組としてインターンシップ(就業実習)を実施しています。インターンシップは、職場体験型、仕事理解型などの種類がありますが、近年特に教育効果が高いと評価されているのが「課題解決型インターンシップ」です。本学における「課題解決型インターンシップ」は、企業や団体が実際に抱えている課題に取り組み、課題を解決するためのプロセスを実践します。一つの課題に対して学生2名がペアを組み、4週間の実習と事前事後の指導を通じ、実社会でも応用可能な汎用的能力を養うとともに、大学での学びについて自分自身が主体的に考える力を伸ばしていきます。	

12	コーチングスキルを通した中退予防プロジェクト
九州産業大学	
九州産業大学では、平成27年度から中退予防の13プロジェクトを導入しています。このプロジェクトの中核として、コーチングスキルを活用しています。例えば、教職員の面談スキル向上のためのコーチング実践型研修、成績不良学生に対する三者面談、先輩学生を初年次ゼミに1名配置するLA(ラーニングアシスタント)制度、教務部職員による出席簿、出席不良学生及び成績不良学生への継続指導・支援など、学生への指導・支援のみならず、教職員やLA学生などにもコーチングスキルを組み入れた内容としています。その結果、中退率の減少、成績不良学生の減少、全体の出席率の向上など、一定の成果が確認できています。	

13	入試制度に職員参画「KSUアドミッションオフィサー」
九州産業大学	
九州産業大学では、平成30年度からAO入試を改革し、「育成型入試(全学部・全学科実施)」を導入しました。この入試制度の特徴は、職員がKSUアドミッションオフィサーとして入試制度に参画し、高校生と面談を担当した後、その面談内容を高等学校にフィードバックすることになっております。高等学校へのフィードバックは、日本で初めての取組だと言われています。この入試制度を通して、本学で学ぶ意欲の高い学生の獲得、学部・学科のマッチング、「選抜」から「育成」、高大接続システム改革への対応などを行ってあります。このポスターセッションでは、「KSUアドミッションオフィサー」に焦点を充てた「育成型入試」について発表いたします。	

14	教職協働による「AL型授業推進プログラム」～実践型人材の育成を目指して～
福岡工業大学	
本事業は、実践型人材の育成を目指し、教育改革のフレームに「教授方法の質的転換」を加え、その具体的方策としてアクティブ・ラーニング(以下AL)の全学的展開を推進、学生の「知識定着」と「能動的な学習態度の涵養」の実現を図ろうとする取組です。具体的には、対応教室整備、3つのポリシー改訂、事例調査・研究、ALテーマ講演会・報告会開催、クラス・サポーター育成、授業アーカイブシステム構築等に取組んでいます。本年度は新たに学習ポートフォリオの開発や学生FDスタッフによる授業改善活動等、学生が学びを振り返り、学びの主体者として活動する取組を新たに加え、AL型授業の全学展開をさらに進めています。	

15	長崎国際大学教育基盤センターの開設とその取組み
長崎国際大学教育基盤センター	
長崎国際大学教育基盤センターは、学生の学修支援を行うとともに、教育の向上に向けた企画・立案を行うことを目的に平成29年4月に発足した。体制は、4つの部門に分かれている。様々な学生に対する学修支援と学修相談を行う「学修支援部門」、共通教育、初年次教育、リメディアル教育等の企画・運営を行う「初年次・共通教育部門」、教職課程の充実と教職への就職支援、資格試験取得の支援を行う「教職等支援部門」、そして、学修成果の可視化を行い、また教育向上のためのFDやSDの企画・運営を行う「評価IR・研修部門」である。各部門は部門長を含む数名の教員と事務職員からなる。発足してまだ半年ほどの施設であるが、その取組みとこれからの展望について紹介したい。	

16	福岡歯科大学の卒業時アウトカムを考慮した学修成果可視化の試みについて
福岡歯科大学	
福岡歯科大学では、平成26年度に文科省APの採択を受け、ディプロマポリシー(DP)・学力上における学生の学修成果の可視化に着手している。しかし、本学のDPは概念的・抽象的概念としての文言であり、明確な目標となり得ない可能性が考えられた。そこで学生が卒業時に「何ができるようになるか」という要素を取り入れた卒業時アウトカムを設定し、学力と共にこれを既存のシラバスの行動目標に紐付けよう追加した。との関係を明示した新シラバスを作成した。この卒業時アウトカムと行動目標との関係を明示した新シラバスを平成29年度4月から運用開始したのでその作成プロセスと成果を報告する。	

17	西南女学院生のキャンパスニーズに関する調査
西南女学院大学・大学短期大学部	
西南女学院学生グループSTEP UPと教職員グループで企画した、西南女学院生のニーズ調査の結果について報告します。STEP UPは「Start」・「Try」・「Excite」・「Power」の頭文字からなる。西南女学院生による西南女学院生のためのキャンパスマイ向上を目的とする自主活動グループです。今回、活動の開始にあたり、西南女学院生のニーズ調査を行いました。調査結果と共に、結果を基に考えた学生による学生のための学生サポートの検討にも是非ご注目ください。	

18	福岡工業大学学生FDの取り組み
福岡工業大学	
福岡工業大学における学生FD活動は、本学の授業改善を教員・職員・学生の三位一体で改善・向上させようとする取り組み、およびそれに関わる活動です。学生FDスタッフは本学の授業改善を学生の視点から教職員と一緒に考え、教職員と学生をつなぐ活動によって福岡工業大学での「学びのコミュニティづくり」の役割を担っています。取組の中で、学生の本音を吸収し、学生が感じていることを教職員に伝える、また教職員が考えていることや課題を学生の視点から考え、それを学生に伝える存在として活動し、その主体的活動によって本学の授業改善活動の活性化に寄与したいと考えています。今回は主にH29年度の活動について発表します。	

19	中村学園大学 Student Job ～より良いキャンパスマイライフのお手伝い～
中村学園大学・中村学園大学短期大学部	
中村学園大学の学内アルバイト制度スチューデントジョブ(SJ)について発表します。最初に、スチューデントジョブの制度や仕事内容について簡単な説明を行います。そして、今年度より、スチューデントジョブセンター内にて【学生にとってSJをより良いキャンパスマイライフを送るひとつの手段にしてみようこと】を目標に行ってきた1年間の活動成果を発表します。その活動結果として、①年度別の登録者数の推移・どのようにSJを知ったのか等のアンケート結果をグラフ化し、広報活動の成果について②今年度から導入したLINE@の公式アカウントを用いてどのような広報活動を行ってきたのかについて、③実際にSJで働いたことのある学生の感想について発表します。	

20	新宮町における情報技術を用いた課題解決型学習の取り組み
福岡工業大学	
福岡工業大学は新宮町と包括的連携協定を結んでいます。情報システム工学科の山口研究室では、新宮町における地域の課題について、学生が行政職員や地域住民の皆様と連携し情報技術を活用して課題の解決を目指す課題解決型学習に取り組んでいます。活動の流れとしては、学生が地域の方々に課題についてヒアリングを行い、課題解決に向けたスマートフォンアプリやWebアプリの開発を行います。これまで、新宮町の観光促進を目的とした観光情報提供アプリや、住民の方がごみ分別情報をすぐに確認できるごみ分別情報提供アプリの開発を行っています。本ポスターでは、新宮町でのこれまでの取り組みについて学生自身によって発表を行います。	

21	古賀市をフィールドとした経営工学サービ斯拉ーニング～「大学での学び」を「地域のサービス」に換えて、さらなる「深い学び」へ。
福岡工業大学情報工学部システムマネジメント学科／大学・地域連携推進室	
福岡工業大学情報工学部システムマネジメント学科では、「経営工学」を中心とした学びを軸に、地域における課題解決を目指すサービ斯拉ーニングを正課授業(3年生)としてスタートした。本発表では、その事例の一つとして古賀市をフィールドとしたサービ斯拉ーニングを取り上げ、その概要と本サービ斯拉ーニングの「立上げ段階」、「準備段階」、「実施段階」に対する省察や、「実践的人材の育成」を目指す「学びの深化」に向けた今後の取り組みについて報告する。	

22	早稲田大学の地域連携教育～多様性が育む人間力～
早稲田大学	
早稲田大学は総合プラン「Waseda Vision 150」で、どこにいても、どのような分野でも、多様な価値観・文化的背景をもった人々との相互理解を深めることができる、「敬智」「志」「実行力」を備えた、いわば「人間的力量」を持ち、社会に貢献することができるグローバル人材の育成を目指している。これは、国際的な意味に限らず、国内の地域の活性化をリードする人材も含む。この力量を養う場として、キャンパスでの学修のみならず、キャンパスの外に積極的に出て、多様な人々との関わりの中で人間を磨く、地域と連携した様々な教育を行っている。そして、地域で学んだ学生が卒業後に出身地や他の地域で活躍する。早稲田と地域との「人材還元」を作出す。	

23	学生と地域が得ること～姫浜西南大学まちを通じて～
西南学院大学	
西南学院大学経済学部の小出ゼミを中心とする「姫浜西南大学まち」は、学生の社会力向上と地域の活性化を目的とする。交流拠点「M'sコミュニティ」やネットの相互効果を利用した地域・大学連携です。学生と地域の人が互いに違う視点や考え方を学び、今までになかった発想が加わり、年齢や地域を超えた絆で活動しています。今回は、昨年度ゼミ生が姫浜で実施したアンケート調査の結果と、3段階の「参加しました」を通じて学生と地域が得ることについて、ポスター発表します。①大人たちの活動に加わる→②自分たちでイベントを企画する→③取組の枠を超えた地域活動へ、という各段階で、学生と地域がどのようなメリットを得ているでしょうか？	

24	全学SALCを中心とする数学教育体制の改善
崇城大学総合教育センター	
崇城大学総合教育センター所属の数学教員は、大学教育再生加速プログラム(AP)事業をきっかけとして、これまで構築してきた入学前指導から、習熟度別クラス制度、2年次の専門基礎科目、学習相談員制度などの体制を、年度ごと に統一的に機能するように改善してきた。AP事業により開始された全学SALCと呼ぶ「先輩が後輩と対話する場」の構築を通して、様々な制度が相互的に影響を及ぼし変遷してきた状況を説明する。	

25	「学生指導員」導入の効果と課題
熊本保健科学大学アカデミックスキルラボ	
本学(熊本保健科学大)ではことし4月、「アカデミックスキルラボ」が開設され、主にライティング、プレゼンテーション指導を通して、学生のスキル向上だけでなく、自律的に「学び」に向かわせる姿勢を育てることを目指している。ラボの指導の中核を担うのが、学生指導員である。これは、ラボにおいて指導を受けた学生が正課、課外を問わず、あらゆる指導の場面で学生に寄り添い、対話しながら互いの成長を目指すという狙いがある。とはいえ、全てが新しい取り組みであること、さらにラボの運営が指導員の自主性に負うところが多いため、初代指導員は試行錯誤の連続である。本発表では、指導員の実践を通じて見てきた効果と課題を報告する。	

26	熊本大チュートリアルシステム～対話を通した思考の洗練～
熊本保健科学大学アカデミックスキルラボ	
本年度、熊本保健科学大学に開設された「アカデミックスキルラボ」は、主にライティング、プレゼンテーション指導を通じ、学生を自発的な「学び」へと導くことを目的とする。その最大の特徴は、対話を通じた指導である。指導の担い手は、ラボが養成した「学生指導員」である。ラボでは、担当教員が定期的に指導員を一对一で指導、それぞれの指導員が複数の指導員候補をグループ指導する形を取っている。いずれの指導も一方向的なものではなく、相互対話を重視したものであり、相互の気づきの積み重ねにより個々の思考を洗練していく試みである。それは正課、課外を問わず学修支援の場で生かされ、一般学生にも好影響を与えつつある。	